

事業所名		多機能型通所支援事業所 あさてい	支援プログラム（児童発達支援）	作成日	2025年5月10日		
法人（事業所）理念		<ul style="list-style-type: none"> すべての子どもたちが自分らしく、安心して成長できる社会の実現を目指し、子ども一人ひとりの発達と尊厳を大切に支援を行う 支援を通じて「今」だけではなく『「未来」（明後日）』に続く可能性を育み、家庭や地域とともに子どもの人生を支える結び目となる支援を行う 					
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達特性や家庭の状況を踏まえ、一人ひとりの可能性を最大限に引き出す支援を行う。 保護者や地域社会と連携しながら、安心して通える環境の中で、楽しみながら学び、成長できる機会を提供する。 					
営業時間		9時00分から14時00分まで（14時以降要相談で利用可）	送迎実施の有無	あり なし			
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <健康に関する支援> <ul style="list-style-type: none"> ◆基本的な健康習慣の形成支援 → 手洗い、うがいの習慣化 ・清潔保持（顔をふく、鼻をかむ、歯磨きなど）の支援 ◆体調の変化への気づきと表現 → 「おなかが痛い」「つかれた」などの体の不調を伝える練習 ・絵カードなどを使い、体調を自己表現を促す ◆心の健康の支援 → 不安や緊張への対応（クールダウン、安心できる場の提供） <生活に関する支援> <ul style="list-style-type: none"> ◆生活リズムの安定 → 睡眠・食事・排泄・活動のバランスの支援 ・日課の中で見通しを持った行動ができるよう視覚的支援 ◆身の回りのことの自立 → 着替え、持ち物の管理、整理整頓の練習・トイトレーニングの支援、段階的な自立の促進 ◆社会的マナーやルールの習得 → あいさつ、順番を守る、集団行動でのルールの理解 ◆公共の場でのふるまい（バス・スーパー等での練習） 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <運動に関する支援> <ul style="list-style-type: none"> ◆粗大運動の発達支援 → バランスをとる、走る、跳ぶ、登るなどの全身運動・トランポリン、平均台、マット運動などを通じて基礎体力や協調性を育む ◆微細運動の支援 → 手先の巧緻性を育む（ビーズ通し、ハサミ、折り紙など）・着替、スプーンの使い方、ボタン留めなど生活動作につなげる練習 ◆姿勢や身体のコントロール支援 → 姿勢保持が難しい子どもへのクッションや椅子の工夫、感覚統合的な視点から、適切な運動刺激を提供 <感覚に関する支援> <ul style="list-style-type: none"> ◆感覚統合に基づいた支援 → 感覚過敏や感覚鈍麻の特性に応じた刺激調整（音・光・触覚など）・ブランコ・トンネル・砂遊びなどで感覚刺激を適度に提供 ◆自己調整力の支援 → 感覚のアンバランスによる不快感、イライラへの対応方法の獲得、クールダウンスペースの設置や安心できる感覚刺激の提供（例：ミニテント） ◆感覚に基づく安心感 → 集中力の向上・安心できる触感（毛布、ぬいぐるみ等）の活用・感覚刺激を通して心身の安定や活動への集中を促進 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <認知に関する支援> <ul style="list-style-type: none"> ◆理解力、記憶力の発達支援 → 絵カード・スケジュール表を用いた視覚的支援・順序立てた活動(例：始め→中→終わり)の中で記憶や理解を促します ◆思考力・判断力の支援 → 「なぜそう思ったのか？」と一緒に考える対話支援・困ったときの対処方法を一緒に見つけ、選択肢を示します ◆注意・集中力の支援 → 作業を分かりやすく区切って提示・一度に多くを求めず、子どもが集中しやすい環境を整備 <行動に関する支援> <ul style="list-style-type: none"> ◆ルールやマナーの理解支援 → ロールプレイや絵カードを使って社会的なルールを学ぶ・「こういうときどうする？」の練習を日常的に取り入れます ◆問題行動への要望的対応 → 子どもが不安や混乱を感じにくいようスケジュールの予告・気持ちを表す方法（言葉、カード、ジェスチャー）の習得を支援 ◆事項コントロールの支援 → 感情のラベリング（「今は怒っているね」など）を通じて気持ちの理解を促進・落ち着ける方法（深呼吸、クールダウンスペースの利用など）を教えます 					
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ◆基本的なやり取りの土台作り → アイコンタクト、指差し、身振りなど非言語的コミュニケーションの促進・名前を呼ばれたときの反応や、視線の優先の練習 ◆語彙の獲得と表現力の向上 → 身近な物や動作を指し示しながら、言葉での表出を促す ・絵カード、写真カード、実物などを活用し、「選ぶ」「指す」「言う」の練習 ◆やり取りの練習 → 「どうぞ」「ありがとう」「ちょうだい」などの簡単な会話のやり取り ・歌や手遊び、絵本の読み聞かせを通じて、音韻や表現に親しむ ◆発語が困難な子への支援 → PECS（絵カード交換式コミュニケーション）、VOCA（音声主力機器）等の代替手段の導入 ・支援視覚ツールの活用による理解の助けと、表出の手段の保障 					
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> ◆他者への関心を育てる支援 → 一緒に活動する中で、友だちや大人に注目したり真似をしたりする機会を作ります ・他児の行動に対して、言葉で関心を引き出す「○○ちゃんすごいね」など ◆あいさつや簡単なやり取りの習得 → 朝の会や帰りの会などを通して、習慣的なあいさつの練習 「ありがとう」「ごめんね」などの基本的な社会的行動の場面支援 ◆ルールや順番の理解 → すころく、輪投げ、ジャンケンなどルールのある遊びを通して順番を待つ経験 ◆視覚支援（順番表、写真カード）を用いて「今なにをすればよいか」を理解できるような支援 ◆小集団活動への参加 → 2～3人の少人数での制作やごっこ遊びなどを通じ、他者との協働を学びます ・成功体験を積みこすることで、「一緒にやる楽しさ」や「相手への配慮」を育みます 					
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な面談・家庭との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回以上の個別面談の実施し、成長の様子や支援内容を共有 ・日々の送迎時のこまめな声かけ、連絡等を通じて子どもの様子を伝えます ○保護者との協働による個別支援計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・家族の意向や生活状況を反映した個別支援計画の立案 ・保護者からの要望を丁寧に聞き取り、計画に反映する仕組みづくり ○情報提供・子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・療育に関する資料提供や情報共有（地域の支援機関や制度について） ・保護者向けの勉強会や交流会を実施し、相談しやすい環境を整えます ○家庭との協働支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ご家庭での関わり方や支援方法について助言・支援 ・家族のストレス軽減や心理的サポートにも配慮します（必要に応じて専門機関と連携） 		移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ○個別面談・定期的なフィードバック <ul style="list-style-type: none"> ・発達や行動の変化を報告し、支援内容を共有 ・保護者の悩みや困りごとについての傾聴と助言 ○相談支援 <ul style="list-style-type: none"> ・発達や育児に関する情報提供（関係機関の紹介や制度説明含む） ・就園・就学・生活支援制度などに関する助言・連携 ○家庭での実践方法の助言 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも実践できる遊び方・接し方の提案 ・生活習慣（排泄・食事・睡眠）に関するアドバイス ○保護者同士の交流支援 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や情報交換の機会の提供 ・共感や励まし合いによる精神的サポート ○地域資源との連携支援 <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、医療機関、学校等との連携による支援体制の構築 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関と連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員、医療機関、保育園・幼稚園・学校、福祉機関などとの定期的な情報共有 ・サービス担当者会議や個別支援会議への積極的な参加 ○地域行事・活動への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事・活動への参加・地域の祭りやイベントなどへの参加を通して、社会性・地域とのつながりを育む ・地域住民とのふれあいや関係づくりを支援 ○地域住民やボランティアとの協働 <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会や地域開放日などを通して、地域住民に当事業の理解を促す ・ボランティアの受け入れや活動支援による地域との協働体制の構築 ○地域資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の公園、図書館、商業施設など、地域の生活資源を活用した支援の実施 ・必要に応じて、自治体の相談機関等と連携し、継続的な支援体制を整備 		職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修（障がい特性、療育技術、虐待防止、権利擁護など）への参加促進 ・内部研修（月1程度）で事例検討・支援技術の共有 ○専門職との連携・助言の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・保育士、言語聴覚士、作業療法士など多職種の意見を取り入れたチーム支援体制 ・専門職からのアドバイスによる個別支援の質向上 ○自己評価および第三者評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上、職員自己評価・事業所全体の自己評価を実施し、課題と改善策を共有 ・必要に応じて第三者評価機関による評価を受け、透明性と信頼性を高めます ○IJTの強化と指導体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・経験年数に応じた指導担当者の配置 ・新人職員には指導計画を立て、段階的に業務習得を支援 	
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> ●4月 入園式・はじめましての会 ●7月 七夕制作・水遊び ●10月 ハロウィン制作・仮装ごっこ ●1月 お正月遊び（こま、福笑い） 		<ul style="list-style-type: none"> ●5月 こいのぼり制作 ●8月 夏祭りごっこ・スイカ割り ●11月 自然体験活動（落ち葉拾い、外遊び） ●2月 節分（豆まき）・バレンタイン制作 		<ul style="list-style-type: none"> ●6月 雨の日遊び・あじさい工作 ●9月 敬老の日制作・地域訪問（手紙渡しなど） ●12月 クリスマス会・もちつき ●3月 お別れ会・1年のふりかえり会 	